

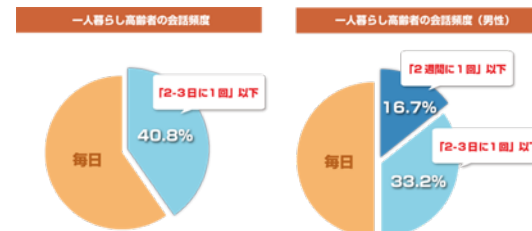
シニアをとりまく世界

シニアと地域（情報・人）をつなぐ接点が不足

■ 地域の人とのコミュニケーションが減少

元々地域の人と交流がなく最近では地域の方とも、地域外の方との会話も減っている。たまには会話したいが話す相手がいない。（68歳 男性）

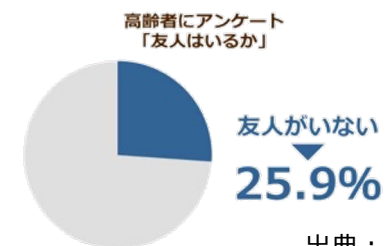
日々色々なコトを感じ誰かと話したい、出かけたいと思うが、一人だと面倒になり現状のまま生きている。（78歳 女性）



■ 家のことや買い物が面倒になり、ひきこもり会話も減少

友人も少なく、普段の人との接点は「郵便配達の人」「ヤクルトの人」などで、大変な時も買い物や家のことをお願いできないし、

ボランティアは月に1回だけなので、電球の取り換えなど自分でできないことはしょうがないが放置（78歳 女性）



■ 情報源は主にテレビ、インターネットも利用はするが検索が主

主にテレビのニュースや新聞を見ている。気になったことはインターネットなどでも調べるが、正しいかどうかわからないのと、

自分の地域の情報や身近の情報があまりないと思う。（62歳 男性）



シニアをささえる社会的仕組みが機能不全に

■ 自治体のケアが行き届かない高齢者の生活クオリティの維持が課題

セーフティネットとなっていた民生委員や自治会の高齢化も進み、介護制度外のシニアのささえる仕組みが機能していない。

判断能力の低下や、徐々にできないことが増え、気づかぬうちに生活クオリティが下がっていくことを防げない。



■ 地域の誰でも簡単に参加できるセーフティネットの不足

自治体の一人当たりのシニア対応予算減少の中で網羅することは限界がきており、また自助組織であった自治会や

ご近所との交流も減少。民間支援団体も存在するが、問題が表出している一部の方しか支援できていない。



■ コミュニケーション減少による認知症の拡大の可能性

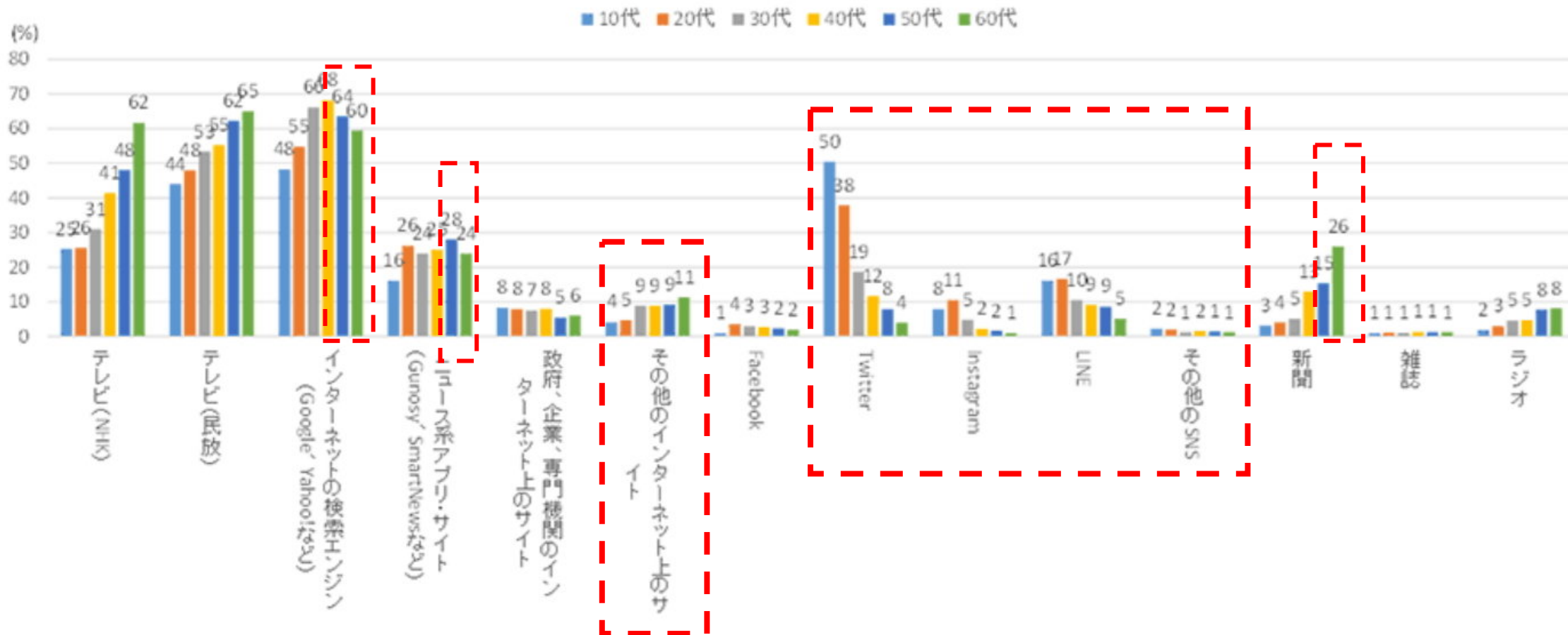
シニアのコミュニケーションは家族形態の変化や、住民交流の変化もあり昔に比べ減少。スマホも所持しインターネットも利用している

が、SNSはあまり使いこなせてなく、オンライン上でのコミュニケーションはとれておらず、認知能力の低下につながる可能性が高い。



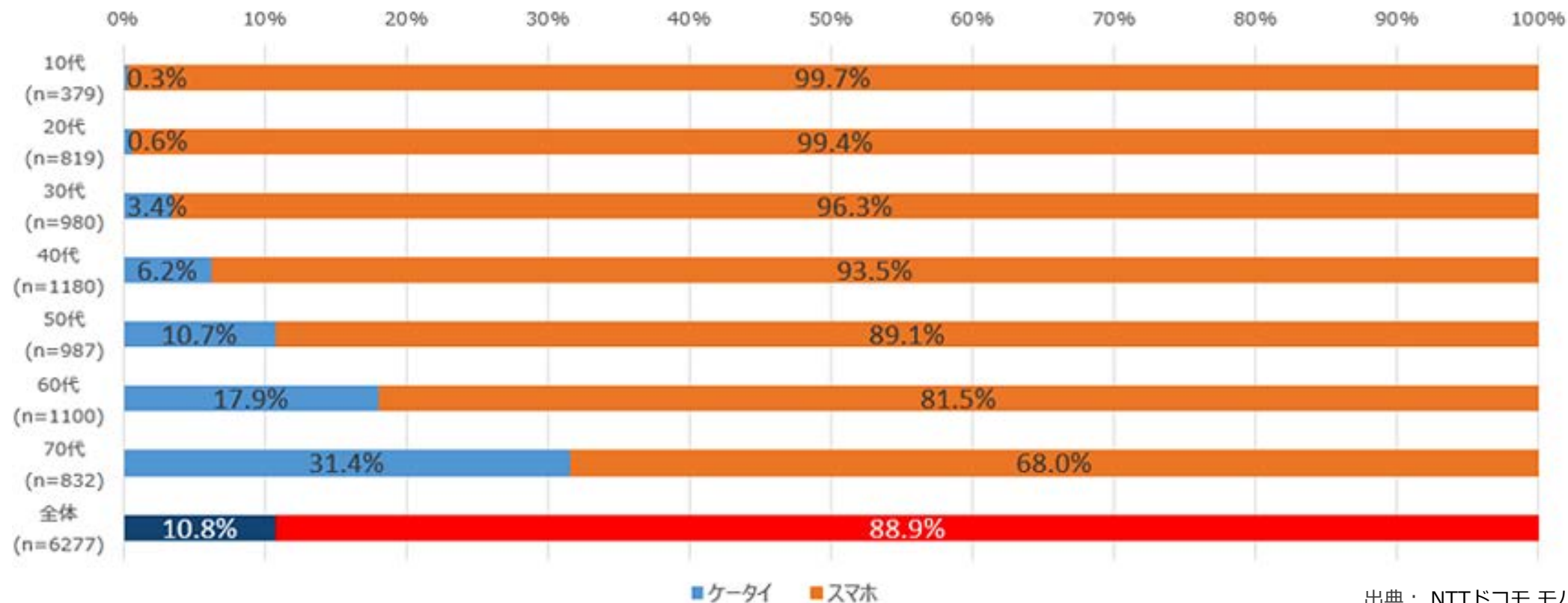
60代はマスメディア接触が主。ニュース系サイトや興味のあることは検索しサイトを見るが、SNSはほぼ利用していない。

※新型コロナの情報源限定の調査であり、通常時の情報入手経路



スマホ所有率は60代は8割、70代も7割弱。普通のこと

ただ、基本操作は理解しているが、アプリやSNSなどについては、使いこなせていないのも実態



出典：NTTドコモ モバイル社会研究所

ゆるやかなつながりで、シニアの幸福度が上がる。

「緩やかな繋がり」に関する学説

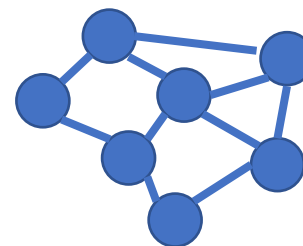
1973年スタンフォード大学社会学部教授マーク・S.グラノヴェターが「弱い紐帯（ちゅうたい）の強さ」を提唱。社会ネットワークの概念。

「家族や親友、職場の仲間といった社会的に強いつながりを持つ人々よりも、友達の友達やちょっとした知り合いなど社会的なつながりが弱い人々の方が、自分にとって新しく価値の高い情報をもたらしてくれる可能性が高い」

「強い紐帯を持つグループは関係が緊密であるが故に外部と遮断されがちで、新規の情報が入ってきづらい。そのような状況にある時、弱いつながりが強い紐帯のグループ同士の橋渡しをし、新しいアイデアや重要な情報をもたらす道を開く」

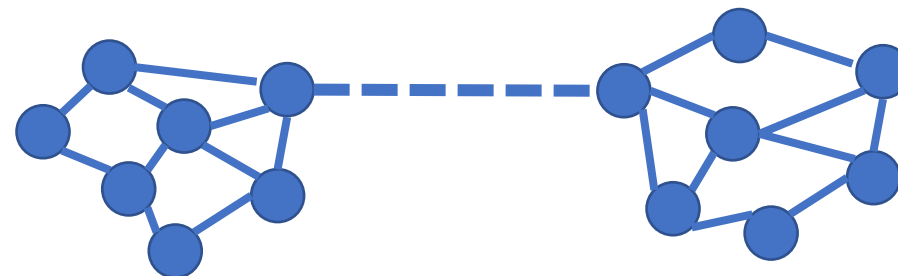
強い紐帯

クラスタの中で情報がめぐる



弱い紐帯

クラスタを超えて情報が伝わる



シニアの会話への需要は今後高まると考えられる。

コミュニケーションは人間の根源的な欲求であり、コロナ禍でコミュニケーションがとれないな状況下で、見知らぬ人と電話をするアプリが人気に。シニアは会話の数が減る傾向にあり特に単身世帯では半数近くが、2～3日に1回以下しか会話をしていない。会話をしたいが相手がないのは一番の要因と考えられる。

見知らぬ人に電話かけるアプリ、ロックダウンで人気急上昇

5/10(日) 10:05 配信

The Telegraph

失われたソーシャル・スペース



昨年、ダイアルアップを初めて利用した際には、バスキン氏やホーキンス氏のようなエンジニア界の人々となることが大半だった。しかし、新型コロナウイルスの影響で、今はまったく違う状況となった。

運送業に携わるアシーシュ・アグルフルさん

(33) もその一人だ。インド・グワリオルで両親と暮らしているアグルフルさんは、わたしからの電話に出るために、わざわざ午前5時半に起床していた。

電話で話す医療従事者。イタリア・ブレシアで(2020年3月17日撮影、資料写真)

電話をかけてくる人が誰なのかはもちろん知る由もない。

会話を通じて分かったことは、おしゃべりが好きなこと、そしてコロナ危機で人と話す機会がなくなってしまったということだ。

単身世帯（55歳以上）の**45.7%**が会話は2～3日に1回以下
夫婦のみ世帯（55歳以上）の**8.8%**が会話は2～3日に1回以下
シニア世代になるともっと高いと推測される

	ほとんど毎日	2～3日に1回	週に1回	月に1～2回	年に数回	ほとんど会話をしない	わからない	不明	会話をする(計)
単身世帯	54.3	26.1	8.0	5.8	0.4	5.4	—	—	94.6
夫婦のみ世帯	91.1	4.8	1.6	1.3	0.3	0.9	—	—	99.1
二世帯世帯（親と同居）	92.6	3.2	—	3.2	—	1.1	—	—	98.9
二世帯世帯（子と同居）	91.9	5.1	0.9	1.1	—	1.1	—	—	98.9
三世帯世帯（親・子と同居）	95.1	—	1.6	—	3.3	—	—	—	100.0
三世帯世帯（子・孫と同居）	91.5	4.5	1.7	1.1	0.6	0.6	—	—	99.4
その他の世帯	85.7	7.1	1.8	1.8	1.8	1.8	—	—	98.2

	ほとんど毎日	2～3日に1回	週に1回	月に1～2回	年に数回	ほとんど会話をしない	わからない	不明	会話をする(計)
男性 単身世帯	45.7	22.3	12.8	6.4	1.1	11.7	—	—	88.3
女性 単身世帯	58.8	28.0	5.5	5.5	-	2.2	—	—	97.8

シニアのオンラインコミュニケーションが通常になる未来

コロナでオンライン帰省や、情報収集のためにスマホの利用が活発になっているシニアが多くなっている中で、シニア向けの新たなプラットフォームが必要になる時代がやってくる。

KEYWORD

「コロナでの外出自粛の常態化」

「5Gでの大容量通信時代の到来」

「シニアのスマホ保持率増加」

「現在のSNSなども利用する50代がシニアに」